

「若き日からの宿題」

八月五日、東京駅近くの丸善オアゾ店で田坂広志氏の名著『目に見えない資本主義』の出版記念講演会が、午後七時からあった。田坂広志氏がどのような人かと語るには、自分にとって非常に難しい。多摩大学大学院の教授でグローバルネットワークシンクタンクのソフィアバンク代表という立場だが、自分にとっては同世代であるにも拘らず、あるいは同世代であるが故にかも知れないが、自分の若き日からの宿題を解決してくれるかも知れない思想的師と思っっている。「かも知れない」というのは田坂氏もしたがって、また自分もまだ答えが出ていないと思わ



田坂広志氏

れるからだ。しかし方向と価値観については、強い共感を持っていて、資本主義へのアンチテーゼとしての社会主義、その止揚としての「目に見えない資本主義」として西洋科学文明の止揚としての東洋思想の深化。こうした事を何の論証もなく述べるのは気が引けるが、若き日にささやかだが、勘違いも含めて思想なるものにながしかを賭けたつもり自分の実感である。「団塊耕志録」が目指す最終目的も、この答えを出す事にある。「若気の過ち」でもひとつの答えではあるのが、未来への志に少しでも繋げられる経験として、総括したいのだ。

「タクシーサイトの志」

実は田坂広志氏の著書には、様々な局面で自分は示唆を得ている。処女作である(多分)『複雑系の経営』(九九七年)を皮切りに『これから市場戦略はどう変わるか』(九九九年)で、株式会社タクシーサイトドットコム設立(二〇〇〇年)のヒントを得た。タクシーサイ

清野吉光氏のコラム

団塊耕志録 第11回



清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

目に見えない資本主義

トそのものは当時のドットコムブームも背景にあつて、タクシー業界にインターネットを普及しようとする意図で設立したが、その大きな特徴はタクシー業界を顧客とする業者に広く出資を募り、異業種のコラボレーションとして企画された事である。結果株主には東京交通新聞、トラモンドの業界紙、二葉計器、矢崎計器のメータ業界、武内工業所、エスアイアイデア、つばめグループのジャパンシステムリース、システムオリジン、元イースタンの常務坂本互氏になって頂いた。競業する業者も含め、タクシー業界の為に新しいインターネット世界のインフラを普及しようというコラボを組んだ趣旨は、これからの業界のニーズに応えるためには業種を超えてコラボレーションをしていかなければ対応できないという田坂氏の著書からのヒントからであり、そのコンソーシアム(連合)の起点にと思つたからである。しかし結果として共同の株主にはなつて頂けたが、我々の力不足により、なんら有効なコラボレーションのサービスを生



タクシーサイトのホームページ

み出す事ができず、紆余曲折を経て、企業としては行き詰まり、オリジンですべての株を引き受けることになつた。現在株式会社タクシーサイトとして継続し、主にタクシー利用者向けのサイトとして特化し、様々なサービスを提供、月間に携帯サイトも含め三十万人の方にアクセスを頂いている。タクシー関連のサイトとしてはトップサイトであり、スタッフの頑張りのお陰だと思ふ。しかし、その期待される役割はもつともつと大きいと思われる。

「未来への志」

また、先の第十回のコラムでも触れたオリジンの二十周年記念式典で発表された「未来への志」の中で

「目に見える報酬」のみならず「目に見えない報酬」を与えられる会社になりたいと述べているが、実はこれも田坂氏の著作「仕事の報酬とは何か」に共感し、自分達の会社もそうなりたいと思っただけである。労働観、仕事観は顧客観、社員観と共に会社にとっては非常に大事な事だ。人間の成熟とは目に見えない物が見えるようになる事だと言われる。会社も売り上げや利益など目に見える物が大事にされるところから、目に見えないものが評価され、大事にされて行く事が会社の成熟だと思われる。むしろそちらの方がより大事なのかも知れない。少なくとも目に見える価値

(金銭的利益)のために目に見えない価値(信頼や信用)を破壊するところが結局どのような事をもたらすかを、今回のリーマンショックを象徴とする金融危機が教えてくれたのではないだろうか？



そして資本主義そのものが貨幣の枠組みに収まらない「目に見えない資本主義」として、進化を始めているのではないだろうか？

「目に見えない資本主義」

今回の新著「目に見えない資本主義」は僅か十日間ほどで書かれたらしいが、非常に大きな歴史観とビジョンを感じる。田坂さんの他の著書の中には百三十七億年の歴史を持つ宇宙の話や、地球、生命、人類の誕生の歴史の中で、今現在の我々の生を見詰め、その生の偶然性と掛替えのなさや言及しており、その時間的、空間的な視野の広さはいつも感銘を受ける。が、今回の本はただいま現在我々が生きている資本主義社会の進化という、近未来の話である。通常、我々が資本という資本金をイメージする。しかし我々は事業を始める上での「元手」は金銭だけでなく、様々なものが

必要だと知っている。技術だったり、顧客だったり、アイデアだったり。近年、知識資本という言葉が重要なキーワードとして登場し、それは関係資本↓信頼資本↓評判資本↓文化資本と形態を変え、なおかつ財務諸表では捉えきれない「目に見えない資本」でもある。人間の「成熟」が「目に見えない」ものが見え、そしてそれに価値が置かれるとしたら、資本主義の成熟も目に見えない資本が価値を持つ時代ではないか？そして実は日本の資本主義、そのベースになった日本の江戸時代からの商売、経済は目に見えぬ物に価値を置いた社会ではなかったのか？経済学者には見えない資本主義の進化↓目に見えない資本主義がこれからの社会の価値の基準となり、日本の果たす役割は非常に大きいと、この著書では提言されている。自分の拙い要約では田坂氏の趣旨が十分に伝わらないと思うので、是非直接この著書を読んで頂けたらと思うが、この本を読んで、タクシー業界に関わるものとして

強く感じた事がひとつある。

日本のタクシー業の世界的役割

日本のタクシー業が構造的に大きな問題を抱えていることは交通政策審議会でも指摘され、また自分自身もタクシー乗務員の経験から感ずることである。しかし一方で、日本のタクシーは世界で一番進んでいると思っっている。ロンドンのタクシーは所詮個人事業に過ぎない。資本主義の普遍的な組織体としての会社組織において、そのサービス、車両、安全性、安心感においては世界で一番だと思っただからこそ、日本の資本主義に期待される役割同様、新たなタクシー業のあり方を創造できる可能性と使命があるのではないかと思っ。「目に見えない価値」サービス」を提供できるタクシー業、それが評価され、ビジネスとして成立するビジネスモデルを確立していくことに、日本のタクシー業全体の使命が世界的にあるのではないか。

(二〇〇九・八・二〇記)

ALCmini II

Alcohol Recording System for Professional



「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-mini-IIで始めるカシタン3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

<お申し込み・お問い合わせ>

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

<製造元>

東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>